

【別紙様式2】

平成30年度茨城県立竜ヶ崎第一高等学校自己評価表(全日制)

<p>目指す 学校像</p>	<p>歴史と伝統を誇る重厚な校風の中で、文武両道の精神を継承し、豊かな教養と英知を備え、地域社会をはじめ国際社会に貢献しうる有為な人材の育成に努める。</p>		
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>重点項目</p>	<p>重点目標</p>	<p>達成 状況</p>
<p>伝統校として「文武両道」の精神を継承しつつ生徒の希望進路の実現に向けて継続的・組織的指導を実践することにより、平成29年度卒業生は現役のみで国立大学に109名が合格した。また筑波大学へ現役で20名の合格者を出すことができた。</p> <p>一方、射撃部が日本一となるなどめざましい活躍をし、ソフトテニス部が全国大会、陸上競技部、水泳部が関東大会出場を果たした。</p> <p>本校の二大プロジェクトである「Rプログラム」「筑波大学研究委員会」に加えて、文科省のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定されている。理数系教育を充実させて自ら課題を設定し探究していく力を伸ばす活動も軌道に乗ってきており、外部機関との連携にさらに深め、SSクラス以外の学級でも課題探究活動に取り組み始めた。</p> <p>教員の側としては、授業研究・授業公開等を活発化させ、授業力の向上と主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。</p>	<p>個に応じた指導の充実を図り、「確かな学力」を育む。</p> <p>キャリア教育の充実を図り、生徒一人一人の進路希望の実現に努める。</p> <p>豊かな心を育む教育を推進する。</p> <p>特別活動及び学校行事の充実に努める。</p> <p>グローバルに活躍できる人材の育成に努める。</p>	<p>(1)生徒が自ら課題を見だし、主体的に学び続け、問題解決できる能力を育成する。 (2)学習意欲の向上につながる指導の工夫とともに、「授業力の向上」に努める。 (3)授業、土曜講座、課外、自学自習を有機的に結びつけ、自主的、主体的な学習習慣の確立を図るとともに、家庭学習の定着に努める。 (4)授業研究・授業公開等を活発化させ、主体的・対話的で深い学びの実現に努める。</p> <p>(1)Rプログラムに基づく系統的・組織的なキャリア教育により、将来の目標をより明確にし、学習意欲の向上に繋げる。 (2)丁寧な個別面談を行い、生徒一人一人の「進路設計とその課題」を明確にし、最後まで諦めずにチャレンジし続ける心を養う。 (3)学年間・教員間の連携を深め、広い視野から組織力・協働力で効果的に進路指導を進める。 (4)「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」事業を通して、生徒の能力と適性に応じた希望進路の選択の幅を広げる。 数値目標：東大・京大及び国公立大医学部医学科複数人合格、 筑波大30人以上合格、国公立大120人以上合格、難関国立12大学20名以上合格</p> <p>(1)規範意識や道徳心の育成等による豊かな心の育成に努めるとともに、「いじめ」を絶対に許さないという意識の醸成に努める。 (2)教員間の協働態勢・共通理解による指導を推進し、教師と生徒の信頼関係の構築に努める。 (3)生徒の心情の理解を深めるとともに問題行動の早期発見・早期解決に努める。</p> <p>(1)文武両面において、前向きに取り組める生徒を育成する。 (2)ホームルーム活動、部活動及び生徒会活動を充実させることで、生徒の主体性を育成する。</p> <p>(1)「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」事業を通して、将来国際的に活躍し得る科学技術人材等の育成を図る。 (2)国際交流事業を推進し、異文化を体験することによって、グローバルな視野を広げる。 (3)英語によるディベートやプレゼンの推進、英語検定試験の受験の促進を図る。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>

【教科関係】

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価			次年度（学期）への主な課題				
教科	国語	1年 現代文では漢字力と語彙力を、古典では文法・句法を中心に、基礎的力を確立させる。	計画的に漢字と古文単語の小テストを実施し、大学受験にも対応できる語彙力をつけさせる。	A	A	A					
			現代文の授業において、論理的に文章を読解する姿勢を育てる。	B							
			文法と句法を段階的に学ばせ、古典に対する基礎的力を育成する。	A							
		2年 現代文・古文・漢文のそれぞれの応用力を育成、進展させる。	各分野のテキストに年間を通して取り組み、基礎から応用へのステップアップを図る。	A	A						
			古文単語小テストを定期的実施し、古語力を高める。	A							
			古典分野においては、大学入試を意識した課題を与えることで、徐々に大学受験に対応できる学力を身につけさせる。	B							
		3年 現代文、古文、漢文の受験に対応した学力を完成させる。	受験を意識した授業の実践を心がける。	A	A						
			小論文や評論に対応した、幅広い知識を身につけさせる。	B							
			知識問題について的小テストを定期的実施し、入試に対応する実践力を高める。	A							
		教科	地歴歴史	授業中心主義を徹底し、学力の向上を図る。	シラバスに基づき、担当者間の連携を図りながら、計画的かつ効果的な授業展開を通じて学力の向上を図る指導を行う。			A	A	A	
					授業内容を精選し、基礎・基本的事項の習得を徹底させるとともに、発展的な内容を扱う授業展開を行う。			A			
					他教科とのバランスを取りながら、適切な内容・分量の課題に取り組みせ、必要に応じて小テストを実施して、授業に対する理解度の確認と学習習慣の確立を図る。			B			
定期考査・校内実力テスト・校外模試の成績分析を通じて、学習内容の習得状況を的確に把握・分析して指導の改善を図り、結果を生徒へフィードバックする。	A										
教科担当者が必要に応じて個別面談・個別指導を行い、指導・助言を通じて学習効果の向上を図る。	B										
資料集など副教材の使用法を工夫し、生徒の興味・関心を喚起し、理解の進化に努める。	A										
興味・関心が持てる授業に努める。 センター試験で高得点を達成するとともに、難関大学に合格できる学力をつける。	板書事項、説明内容・方法等について、教員個々のスキルアップをめざし研鑽に努める。				A	A					
授業公開や教科会等を通じて、相互の指導方法について情報交換を行う。	B										
過去のセンター試験問題ならびに大学入試問題等を十分に研究し、学習指導の改善を図る。	A										

教科	公民	授業中心主義を徹底し、学力の向上を図る。	シラバスに基づき、担当者間の連携を図りながら、計画的かつ効果的な授業展開を通じて学力の向上を図る指導を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・3年課外を計画的に実施する。 ・テスト作成における内容向上の方法を検討する。 	
			授業内容を精選し、基礎・基本的事項の習得を徹底させるとともに、発展的な内容を扱う授業展開を行う。	A			
			他教科とのバランスを取りながら、適切な内容・分量の課題に取り組み、必要に応じて小テストを実施して、授業に対する理解度の確認と学習習慣の確立を図る。	B			
			定期考査・校内実力テスト・校外模試の成績分析を通じて、学習内容の習得状況を的確に把握・分析して指導の改善を図り、結果を生徒へフィードバックする。	A			
			教科担当者が必要に応じて個別面談・個別指導を行い、指導・助言を通じて学習効果の向上を図る。	B			
			資料集など副教材の使用法を工夫し、生徒の興味・関心を喚起し、理解の進化に努める。	A			
	興味・関心が持てる授業に努める。	板書事項、説明内容・方法等について、教員個々のスキルアップをめざし研鑽に努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習の効率的な実施を図る。 ・授業公開を実施する。 		
		授業公開や教科会等を通じて、相互の指導方法について情報交換を行う。	B				
		過去のセンター試験問題ならびに大学入試問題等を十分に研究し、学習指導の改善を図る。	A				
	教科	数学	1年 様々な数学的な見方考え方を学び、数学に対する関心・意欲を高め、学習習慣および高等学校数学の基礎を固める。	日々の授業においては、内容を精選し基礎の確実な理解と定着を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・SSクラスの数学Ⅲの選択についてもっと考える必要がある。 ・持ち時間の都合から毎年全クラスが直列にすることが出来ない現状がある。
				授業と連携した宿題を定期的に課し、家庭における学習習慣と基礎学力の確立を図る。	A		
				定期的に小テスト、章末テスト等を企画し、基礎学力を評価するとともに、そこで得た情報を基に弱点の強化を行う。	B		
2年 科目の重要性を意識させ、きめ細かい指導の下、授業内容を確実に定着させる。		学習に取り組みやすく、理解を深められるように授業展開や進度の工夫をする。	A	A			
		年間を通じて、精選した課題を与え、生徒の取り組みを徹底させる。	B				
		授業進度に合わせ定期的に節末テストを実施し、基礎学力の定着と向上を図る。	A				
3年 生徒の進路実現に向け、大学入試に対応した学力を完成させる。		大学入試を意識した授業の実践に心掛ける。	A	A			
		各テストを通して、大学入試に向けた計画的な学習を支援していく。	A				
		各分野の問題演習を行うことにより、大学入試に対応できる能力を養う。	B				

		授業内容を深化させ、生徒の基礎学力の向上を図る。	シラバスに沿った授業展開を心がけ、担当者間のコミュニケーションを図り計画的な指導を行う。	A	B	B	・主要3教科とのバランスに配慮しつつ、演習量を増やす工夫を試みたい。
			生徒にとって適切な内容・分量の課題を行わせることや、小テストを通して、学習習慣の確立を図る。	B			
			必要に応じ、各科目の担当者が個別の面談・指導を行い、学力の向上を図る。	B			
		興味・関心が持てる、授業展開に努める。	観察・実験をバランスよく実施し、実物に触れることにより、興味・関心を喚起し、理解の深化に努める。	A	A		・教科会で取り組みを紹介し合うなど、より発展に努めたい。
			SSH事業と連携し、日常現象と科学との関連を取り上げることにより、科学への興味・関心を高める。	A			
			PCを利用したシミュレーションやDVDなどの視聴覚教材などを活用し、授業への興味・関心を高める。	B			
教科	保健体育	各種の運動の合理的な実践及び相互理解・尊重の態度を育む。	自己の体力や生活に応じた体力を高めるための運動を合理的な方法で身につけさせる。	A	A	B	・熱中症対策を徹底する。 ・安全管理を徹底する。
			各種の運動の合理的な実践を通して自己の課題を見つけ、解決できる能力を身につけさせる。	B			
			各種の運動を通しての相互理解・尊重の態度を身につけさせ、コミュニケーション能力を育てる。	B			
			熱中症対策、怪我や安全管理に留意して、授業を行う。	A			
	健康に対する意識・実践力を育む。	健康に対する知識や実践力を身につけさせ、明るく豊かで活力ある生活を育む態度を育てる。	B	B	B	・課題解決力の育成を図る。	
	社会生活及び各個人の生活における健康・安全管理について、課題の解決に役立つ基本的な知識を理解する。	A					
教科	芸術	芸術への理解を深めさせる。	芸術の歴史を学び、芸術する喜びを味わう。	A	A	A	・生徒個々の技能面での向上を目指し指導を深める。
			表現方法の習得に務め、感性を磨く。	B			
			芸術を通して、自己のグレードアップをはかる。	A			
教科	外国語	1年 英語に対する意欲及び興味・関心を高め、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4領域について基礎学力の定着を図る。	毎週単語小テストを実施し、基本的な語彙を身につけさせる。	A	A	A	・リスニング力を高める活動を継続する。 ・批判的思考力をつける授業を目指す。 ・学力下位層をフォローするため、課外等を継続していく。
			基本的文法事項を習得させ、英文を読む力と書く力を培う。	A			
			授業や家庭学習でリスニングの指導に力を入れ英語を聞く力を養う。	A			
			ALTとのティームティーチングを通して、話す力やコミュニケーション能力を育てる。	B			
			英検受験を奨励し、準2級および2級の合格を目指す。	A			
			ディベート活動につながる英語の力を身につけさせる。	A			

		2年 基礎力の増強および応用力育成・向上に努め、生徒をより高い目標へと鼓舞する魅力的なわかる授業を展開する。	小テストを継続し、基本的な語彙を定着させる。	A	A	・語彙力と基礎力をさらに強化させる。 ・学力下位層への指導を手厚くする。
			基本文法事項に習熟させ、英文を読む力と書く力を高める。	A		
			授業や家庭学習でリスニングの指導に力を入れ、英語を聞く力を養う。	B		
			ALTとのチームティーチングを通して、話す力やコミュニケーション能力を育てる。	A		
			英検受験を奨励し、2級および準1級の合格を目指す。	A		
			ディベート活動を実施し、英語の運用能力と思考力を身につけさせる。	B		
		3年 生徒の希望進路の実現に向け、受験に対応した学力を完成させる。	平常の授業において、受験に対応した総合的な学力を高めさせる。	A	A	・夏休みの英語の課外のコマ数を増やすことを検討する。(社会と理科にウェイトをかけすぎた感がある。)
			各テストを通して、受験に向けた計画的な学習を支援していく。	A		
			生徒の状況に応じた課外授業及び個別指導を実施する。	A		
			授業・指導法の研究に努め、平常授業の充実を図る。	A		
教科	家庭	家族や家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	実生活に即した実践的・体験的学習を通して、家庭のあり方や家族関係についての基礎基本を習得する。	B	B	・次年度は消費者教育研究指定校なので、様々な角度から一つの教材を見つめ、実習・実験、話し合い等を含め授業を行う。
		家庭や地域の生活上の課題を見つけ解決する能力を育成する。	生活の中心から課題を発見し、解決するための事例研究を行い、学びを深める。	A	A	
			様々な討論法により自己表現力の向上と、自己理解を通しての課題解決を図る。	B		
		生活の充実向上を図る力と実践的な態度を育成する。	具体的な事例や演習の充実を図り、生徒が主体的に取り組む態度の育成を図る。	A	A	
			実生活に即した実践的・体験的学習を通して、一人で生活する能力を習得する。	B		

【校務分掌】

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価			次年度（学期）への主な課題
教務	円滑な教育活動を推進する。	観点別評価の実施を行う。	A	A	A	・各部との連携を更に密にして円滑な運営に努める
		各部・各学年との連絡調整機能を強化し、教育活動の円滑化を図り教育目標の達成に努める。	B			
		授業時間確保のため、時間割の円滑な運営に努める。	A			
	より有益な教育課程の編成に努める。	生徒の多様な進路に対応できる教育課程の編成に努める。	A	A		・SSH2 期目採択の可否に伴い混乱なく教育活動が進むようにする
		SSH2 期目を見据えた教育課程の編成を行う。	A			
	地域、保護者との連携を強化する。	いばらき教育月間に学校公開を行い、地域に公開する。	A	A		・ホームページをより見やすく工夫する
		ホームページをさらに充実させることにより、学校教育活動の公開に努める。	A			
		中学校等の訪問や、本校や校外で実施させる学校説明会により中学校との連携を深める。	A			
		生徒、保護者へのアンケートを実施し、教育活動に生かす。	B			
	生徒指導	基本的な生活習慣を確立させる。	制服を正しく着用させる。定期的な服装指導を行う。（年間3回）る。 登校指導により挨拶を励行させる。	A		B
教育相談体制を確立する。		カウンセリング事業を継続し、専門家を積極的・効果的に活用する。	B			
安全教育を充実させる。		登校指導による交通安全指導を実施する。交通安全講話により意識を高める。 原付バイク登校生徒対象の原付バイク実技講習会を実施する。	B			
進路指導	生徒の主体的な進路選択の支援を行う。	総合学習の時間や大学・企業訪問、先輩の語る話を聴く会、大学研究会などを通して、3年間を見通した計画的な進路指導を行う。	A	A	A	・生徒の学習時間が近年減少傾向にある。何をどのように、いつまでにやったら良いのかを各学年・各教科で具体的に提示（アドバイス）する方法を再度検討する必要がある。 ・新テストに向けて、定期考査における教員の作問能力の向上と、授業の更なる改善が必要。また難関大を指導できる教員の育成も必要である。
		進路講演会や学年集会などを通して、生徒の進路意識を高め、進路実現のために何をなすべきかを考えさせる。	A			
		生徒面談や保護者面談を通して、生徒一人ひとりの希望や適性を踏まえた生徒に寄り添った進路相談を行う。	A			
		進路関連資料の精選と提示の工夫に努め、生徒にとってより利用価値の高い進路指導室にする。	B			

	生徒の希望進路実現のための支援をする。	生徒が第一志望校に合格できるよう、授業の質をさらに高めるとともに、教科での研修を実施して、教科指導力向上に努める。	A	A		・難化している私大文系志望者に対するバックアップ体制の強化する。
		より適切な進路指導ができるよう模試分析会や進路検討会、出願検討会を適宜実施するとともに、進路指導部・学年・教科間のコミュニケーションの充実に努める。	A			
		添削指導や特別講座(課外)など、難関大学合格を目指す指導を組織的に行うとともに、難関大学入試の指導についての教員の研修を支援する。	B			
		上位層だけでなく下位層の底上げを図る取り組みを実施する。さらに、手薄となる中位層への指導を学年中心に検討し、手立てを講じる。	A			
特別活動	部活動と学業が両立できるようにする。	クラス担任と部活動顧問間で問題のある生徒の情報を共有し、両面から指導する体制づくりを行う。	B	A	A	・生徒の情報を共有できる体制を作る。 ・部活動を活性化する。 ・学校行事をさらに充実させる。
		生徒達の状況を理解し、各部活動の効率化・充実化を図るよう、部活動顧問に働きかける。	A			
		各学年、進路指導部、各部顧問との連携を強化し、学校行事と部活動が円滑に連携できるように努める。	A			
	生徒会活動をより活性化させる。	生徒会役員と定期的に話し合いを持ち、安全管理に留意し、学校行事の内容をより良いものにする。	A	A		
		学校行事を通して、色々な生徒達に達成感を味わわせ、生徒会活動への参加意欲を高める。	A	A		
保健	生徒の心身の健康	学校環境の安全に留意し、点検などを行う。	B	B	A	・カウンセリングを必要な生徒に繋げていく工夫をして積極的に働きかけをする。
		保健室の効果的な運用に努める。	A			
		担任・学年・生徒指導部などと協力し、生徒の心のケアの充実に努める。	B			
		性教育講座を通して健全な性への認識を持たせる。	A			
	防災意識を高める	避難訓練をとおして自分の身は自分で守るという意識を持たせる。	A	A		
		竜巻など火災や震災以外の災害にも対応できるようにする。	B			
		防火管理体制を充実させ、防災避難訓練を実施し、非常時に備える。	A			
	学習環境の整備	清掃分担を明確にし、清掃の徹底を図る。	A	A		
		空調設備の適切な管理運営と快適な学習環境作りに努める	B			
トイレ清掃などを徹底し、衛生的な学習環境を整えるように努める。		A				
渉外	PTA活動の活性化及び学校と家庭の連携強化を図る。	PTA総会や支部総会への参加率を高めるよう努める。	B	A	A	・PTA総会・支部総会への参加率を高めるための新たな企画を考える。
		PTA役員会や生徒指導委員会・PTA便り編集委員会などの委員会活動を通じて、保護者との連携強化に努める。	A			
		保護者向けの広報活動を積極的に行うとともに文化祭のPTA企画への参加率を高めるよう努める。	A			

図書	図書館の円滑な運営に努める。	担当職員間で適切な業務分担を行い、連絡を密にするとともに、授業や課題研究などでの図書館利用の促進に努める。	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 適切な業務分担を行い、学習の場としての拡大を図る。 担当職員の指導のみならず、自発的な委員会活動を目指す。
		昼休み・放課後の当番制を徹底させる。	B			
	蔵書を充実させ、その利用を促進させる。	展示レイアウトや図書選びのアドバイスにより利便性の向上を図る。	A	A		
		学年や教科の推薦図書および小論文関係の図書を充実するとともに、生徒の購入希望図書にも留意することで利用の促進を図る。	A			
	図書委員会活動を一層充実させる。	生徒図書委員研修会への参加による図書委員の資質を向上させる。	A	B		
		日常の係活動の活発化させる(カウンター当番・図書館便りの編集・図書館環境の整備など)。	B			
	各種コンクールへ積極的に参加するように働きかける。	読書感想文・感想画などの募集および選考する(教科・部動活との連携)。	A	A		
視聴覚機材を円滑に活用できるようにする。	学校行事などで放送機器の円滑な運用に努める。	A	A			
SSH	生涯にわたる主体的な学びの原動力である、持続的な学習意欲や知的好奇心を高め、未来への飛躍を実現するチャレンジ精神やリーダーシップを育む。	教科・科目を融合した、意外性や新たな発見に富む授業により、持続可能な学習意欲や知的好奇心を高め、また協働的な探究活動に取り組む事で、チャレンジ精神やリーダーシップを育む。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 各教科における「問う力」を育成する取組の具体的な計画をし、実施する。 校内教員研修を計画し、実施する。 評価手法を開発する。 1年で取り組む課題研究の基盤育成するための年間計画を立案し実施する。 2年の課題研究のロードマップを作成する。
		フィールドワークを行ったり、大学や研究所等の研究者と直接交流することなどを通してすることで、学習意欲や知的好奇心を高めるとともに、チャレンジ精神やリーダーシップを育む。	A			
	基礎的な知識・技能を確実に修得し、科学的なものの見方・論理的思考力を養い、問題を解決する能力を育成する。	教科・科目を融合した授業や、実験などの様々な実習を含む授業を通して基礎的な知識・技能を確実に修得する。	B	B		
		協働的な探究活動やディベート活動に取り組む事で、科学的なものの見方・論理的思考力を養い、問題を解決する能力を育成する。	A			
	日本人としてのアイデンティティを大切にしながらも、グローバル社会で世界の人々と協働するためのコミュニケーション能力および発信力を身につける。	和算に関する課題研究等の学習を通して、日本人としてのアイデンティティを育む。	A	A		
地域の小中学生への科学講座等を行ったり、外国の人々と交流したりすることで、様々な価値観を学び、視野を広げ、コミュニケーション能力および発信力を高める。		A				

※評価基準:A, B, Cの3段階で評価する。 A(達成された), B(ほぼ達成された), C(達成されなかった)

【学年関係】

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題		
第1学年	基本的生活習慣の確立	挨拶の励行、清掃の徹底、容儀指導の徹底、時間厳守、期限厳守等の凡事徹底を図るべく、学年全体として共通認識を持ち、常に生徒状況を確認しながらきめ細かな指導に取り組む。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物等の期限厳守を中心とした凡事徹底 ・課題等について、教科間の連携を強化する ・学習時間の確保と学習習慣の定着に向け、スタディレコードの効果的な活用方法を研究する 	
	学習習慣の確立と基礎学力の定着	初期指導の充実を図り、授業を中心とした予習復習のサイクルが確立できるよう、授業およびホームルーム・学年集会を通して継続的な指導に取り組む。	A	B			
		生徒が授業内容をしっかり定着できるよう、各教科で連携して課題の量を調整するとともに、生徒の課題への取り組みおよび定着が徹底されるように指導する。	B				
		学習記録簿(スタディーレコード)を活用しながら、自主的に計画を立てられる力を身につけさせる。	B				
	進路指導の充実	LHR および道徳の授業を中心として、進路意識が高められるように年間計画を立案し、将来の目標や職業観などを育む指導を行うとともに、2年次の文理コース選択に対して適切な指導を行う。	A	A			
		進路指導部と連携し、適切な時期に適切な進路情報を生徒・保護者に提供する。	A				
進路指導部、SSH 委員会、国際交流委員会と連携し、生徒の進路目標設定に意義のある行事を企画・実施する。		A					
心身の健康管理	生徒一人一人の心身の成長とともに、健康的な学校生活が送れるよう、保健部や保護者と連携しながら、生徒個々の問題の早期発見に努め、適切な指導を行う。	A	A				
第2学年	基本的生活習慣の確立	挨拶の励行・自ら身なりを整える・時間を守る・清掃をしっかり行う・授業と休み時間のけじめをつける・勉強と部活の切り替えを明確にするなどの凡事徹底を旨とする。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「時間の管理」が不十分な生徒が多い。逆算して行動できるよう指導する。 ・進路講演会やRガイダンス、面談等で生徒一人一人の希望に合った進路を見つける支援をする。 ・学習習慣が身につけていない生徒がいまだに多い。面談やスタディーレコードの活用を通し、十分な学習時間を確保し、目標を達成できる学力を身につけさせる。 ・面談の充実や教員間の情報共有を通して、よりいっそう綿密な生徒支援体制を整える。 	
	進路指導の充実	LHR などを活用し、自分の進路希望を具体化させ、大学の学部・学科研究等を通じて進路意識を高める。	A	A			
		進路指導部と連携し、適切な進路情報を生徒と保護者に提供する。	A				
		SSH 部と連携し、将来グローバルに活躍する人材育成に努める。	B				
	学習習慣の確立 総合学習の推進	家庭学習が十分になされるよう、教科間で連携を図りながら、適切な時期に適切な内容・適切な量の課題を与える。	A	A			
		学習記録簿を面談資料として活用し、平日2時間以上、休日4時間以上の質の高い学習時間確保を促す。	B				
		理系 SS コースは探究活動として課題研究に取り組む。またそのノウハウを活かし、文系理系を問わず全てのコースにおいても進路・学校行事に合わせた探究活動に取り組ませる。	A				
	心身の健康管理	生徒が心身ともに健康な学校生活が送れるように留意し、生徒の問題を早期発見、早期指導に努め、保健部や保護者と連携しながら適切な指導を行う。	A	A			

第3学年	学力の向上	2年次までの取り組みを継承し、予習・授業・復習のサイクルの重要性を踏まえながら、さらに発展的学習に自主的に取り組む姿勢を養う。	B	A	A	・サイクルの可視化を徹底する。
		各教科で、年度当初から入試を意識した指導を行い、適切な時期に、適切な課題、適切な指示を与えるように努め、学年教科担当者が相互に連携をとりながら、学習意欲の向上を図る。	A			・集会等で単発の取り組みに終わることなく、継続性を図れるようにする。
		定期考査・模擬試験の分析結果を授業に反映させ、授業内容の充実を図るとともに、受験勉強のペース・指針を生徒に示し続ける。	A			・学年会等を通して情報・指針を共有する。
	基本的生活習慣の確立	最上級生として後輩の模範となるように規律ある生活に努め、学校行事や生活面・部活動面において中心となって取り組むように指導する。	B	A	A	・学年間・部活間の連携を更に図る。
		生徒指導部と連携しながら、きちんとした服装・頭髪、時間の厳守、挨拶の励行などについて、集会やLHRで継続的に指導する。	A			・特別な行事の時だけの指導にならない恒常的な取り組みが必要である
	進路指導の充実	生徒の学習成績や適切な進路情報を、学年団で共有し、生徒や保護者に有効に提供できるようにする。	A	A	A	・毎週の学年会の更なる活用を図る。
		LHR、学年集会、講演会等を通して、入試や志望校の研究に努め、目標に向かって邁進する環境・雰囲気醸成する。	B			・様々な進路行事やLHRでの取り組みのポートフォリオ化する。
		生徒との面談や保護者との意思疎通を密にし、必要に応じて学年外の職員の協力を得ながら、適切な進路指導ができる態勢をつくる。	A			・クラス間・教科間の連携を図る。
	心身の健康管理	生徒が心身ともに健康な学校生活を送れるように留意し、生徒の問題の早期発見、早期指導に努め、保健部や保護者と連携しながら適切な指導を行う。	B	B	B	・それぞれの生徒に複数の教員が面談等の目を通して現状把握を図れる体制をつくる。

※評価基準:A, B, Cの3段階で評価する。 A(達成された), B(ほぼ達成された), C(達成されなかった)